



リニューアルされた展示室

鳥羽一丁目の鳥羽歴史文化ガイドセンター2階にある門野幾之進記念館の展示が昨年11月28日にリニューアルされました。

この記念館は門野家創設の教育振興団体「靄溪^{あひけい}奨学会」（東京）と旧千代田生命（現ジブラルタ生命保険株式会社）によって昭和59年に建設さ



分かりやすい展示になりました

れ、門野家から市に寄贈された3200点余りの資料を収蔵し、幾之進ゆかりの資料一部を展示しています。

このたび、財団法人「靄溪奨学会」のご厚意により、展示室がリニューアルされ、幾之進の少年時代から実業家として大成するまでの歩みを6部に分けて紹介しています。慶応義塾時代の写真、時事新報に載った門野と犬養毅の時事漫画、福沢諭吉の書など約



式典の様子

1000点の貴重な資料がデジタルフォトフレームなどで分かりやすく展示されています。

幾之進は、幼い頃から勉強を重ね、13歳で上京し日本のトップクラスの学校であった慶應義塾に入学し、福沢諭吉に師事することになりました。

そして、わずか15歳で英語教師として教鞭をとり、その実力から「ボーイ教師」と呼ばれ親しまれました。

幾之進は、真珠王・御木本幸吉、鳥羽商船学校創設者・近藤真琴と並び「鳥羽の三賢人」と呼ばれました。小さな藩であった鳥羽藩から激動の明治期に活躍した偉大な人物を多く輩出していることは特筆すべきことといえます。

開館時間は午前9時から午後4時で入場は無料です。ぜひご来館ください。

鳥羽のお宝
再発見!

vol.34

教育委員会生涯学習課
☎ 1268

2月3日は節分です。節分とはもともと季節の変わり目で、立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言いました。昔の暦は春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分になったそうです。

そして、その昔、悪い病気が流行し、農作物も不作が続き、それを「鬼」のしわざとして追い払うため、イワシの頭を入りに刺したり、ヒイラギの木の枝を刺す儀式をしました。鬼はイワシの臭いとヒイラギの枝のとげを恐れたと言われています。

「鬼」といえば、わたしたちが小さい頃は、泣いたり怒ったりすると「鬼が連れに来るよ」などとよくおどされたものです。「鬼」に限らず「こわいもの」「こわい人」がいたものです。近所や地域には必ず

叱ってくれる人がいました。最近「ほめて育てる」という言葉が先に歩いてしまい、こどもを怒ってはいけないという考え方や、「そんなことすると怒られるよ」などと責任転嫁する言葉も耳にします。

しかし、いけない事をした時は「それはいけないことだよ」と教えてくれる大人が周りにいるということは、こどもにとって幸せなことです。

鳥羽市では『みんなで子育て』を目的にさまざまな子育て支援事業に取り組んでいます。今後も「子育てしやすい鳥羽」を目指して、地域のみなさんと共に鳥羽のこどもたちを見守っていかれたらと思います。

そして、この節分を機会に家の中だけでなく、自分の心の中にいる「鬼」を追い払い楽しい春を迎えましょう。

みんなで子育て
だっこでほっと
もう春ですよ

vol.21

子育て支援センター
☎・☎ 7221